

**ダウン症のある方たちの生活実態と、
ともに生きる親の主観的幸福度に関する調査**

報告書（第一報）

令和 2 年 11 月

公益財団法人日本ダウン症協会／日本ダウン症学会

第1章 調査の目的

新型出生前診断（NIPT）技術の登場により、ダウン症をめぐる社会的な議論が起きている。公益財団法人日本ダウン症協会（JDS）は、2019年3月20日付で「母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査（NIPT）等をめぐる昨今の動きをふまえて」と題した行動計画の素案を公表した。今回の調査は、この素案に示した「その3 妊婦・カップルに向けたエビデンスに関する調査」、すなわち妊婦およびカップルに提供される「『社会的障壁』とその克服に関する情報」に対し、新たなエビデンスを付け加える取り組みを具体化する作業のひとつである。

NIPTを含めた胎児の遺伝学的検査においては、妊婦ないしカップルの妊娠継続／中絶に関する自己決定を担保するために、遺伝カウンセリングが重視されてきた。しかしながら、遺伝カウンセリングは、その性質上、生物学的特性としての障害については詳細に説明できても、社会的障壁としての障害についてはなかなか説明しきれないと思われる。社会的障壁としての障害は個別性が高く、説明するとしても「障壁の存在」については説明できても、「その障壁をどのように乗り越えているか」についての説明は困難を伴う。

今回の調査では、この点に鑑み、ダウン症のある子どもとの人生を歩んでいる親たちの心情と、それに関連する対人的な要因について探ることを考えると目的とす

る。同時に、わが国においては「知的障害」という括りの中にダウン症のある人たちが含まれてしまっていることから、現在のわが国におけるダウン症のある方たちの生活実態についての基礎データを得ることも目的とする。

今回の報告書は、この調査の単純集計結果に、性差等のごく簡単な分析を加えた結果であり、調査報告の第一報と位置づけている。

第2章 調査の方法

1 調査票の構成

調査は質問紙法とし、郵送による配布と回収を行う。調査対象者は、公益財団法人日本ダウン症協会の正会員とした。

調査票は、以下のように構成されている。

- ① 家族構成：ダウン症のある子どもが単独子であるのか同胞があるのか等、家族構成によって親の心情に差異があるのかどうかを検討するために設定した。
- ② ダウン症のある方と両親の健康度とADL（日常生活における各種の活動の水準）：ダウン症のある方のADL把握のための質問項目は、障害者総合支援法に基づく障害支援区分の調査項目を使用した。これは、結果次第では支援区分判

定のあり方についての提言や要望の作成にも利用する目的を持っている。

- ③ ダウン症のある子どもの両親の多次元共感度尺度：ダウン症のある子どもとの人生においては、両親の共感度のあり方が、人生の質を左右する重要な要因になると考え、共感度を複数因子で分析できる尺度を用いることで、両親のどのような心理的特徴がリソースになり得るのかを検討する目的で設定した。
- ④ ダウン症のある子どもの両親の精神的回復力尺度：子どもにダウン症を告知されることはどんな両親にとってもショックであるという前提に基づき、両親の精神的回復力の測定を目的とした。
- ⑤ 両親の主観的幸福度：今回の調査結果を分析していくひとつの要として、両親の主観的幸福度の測定を試みた。この項目の高低とその他の調査指標を組み合わせることで、現在の日本社会において「ダウン症のある子どもとともに生きる」ということの課題を探索することを目的とした。
- ⑥ ダウン症のある子どもを育てていく中でストレスとなった対人関係、リソースと対人関係に関する質問項目：現実問題として、ダウン症のある子どもとの生活の質には、さまざまな対人関係が強く影響しているとの仮定に基づき、どのような対人関係がリソースになり得るのか、ストレスになり得るのかについての手掛かりを得ることを目的として設定した。
- ⑦ 家庭の経済力、居住地域と自治体の規模：おおまかにではあるが、両親の心情

のありように地域較差があるのかどうか、また、経済力の影響についても検討する目的で設定した。

第3章 調査の結果

調査期間は2020年7月10日～7月31日であり、配布総数4471通、回収数1581通（回収率35.4%）。無効回答はなかったが、調査項目によっては無回答部分があるとデータとして採用できないものも存在する。こうした点については個々の結果説明の中で注記することにする。

I 回答者の生活状況ならびに健康状態について

I-1 居住地等について

回答者の現時点での居住地（都道府県別ならびに政令都市／中核市／市／町／村別）、DSのある子どもが出生した時点での居住地（都道府県別ならびに政令都市／中核市／市／町／村別）を表1に示す。現時点の居住地ごとのJDS会員数を合わせて示す。

今回の回答者の居住地分布は、JDS 正会員（調査票送付対象者）の居住地分布とほぼ一致しており、サンプルとして妥当性があると考えられる。

なお、居住地に関して、政令都市／中核市／市／町／村別の回答も求めたが、この質問項目に対しては全回答者の 45.2%が無回答であり、データから削除することとした。

カテゴリ	居住地回答数①	居住地①%	出生地回答数	出生地%	居住地回答数②	居住地②%	JDS会員数	会員数%
北海道	5	0.3	8	0.5	5	0.7	13	0.3
東北	139	8.8	139	8.8	61	8.4	368	8.2
関東	705	44.8	732	46.3	323	44.3	2077	46.5
中部東海	107	6.8	118	7.5	46	6.3	323	7.2
北陸	37	2.4	39	2.5	15	2.1	154	3.4
近畿	159	10.1	167	10.6	78	10.7	404	9.0
中国	132	8.4	132	8.3	53	7.3	392	8.8
四国	105	6.7	102	6.5	35	4.8	363	8.1
九州	125	7.9	123	7.8	56	7.7	374	8.4
海外	1	0.1	14	0.9	1	0.1	3	0.1
無回答	59	3.7	7	0.4	56	7.7		
回答者数	1574	100	1581	100	729	100	4471	100
居住地回答数①は、転居経験に関わらず現在の居住地（転居歴あり／なしそれぞれの居住地の合計 転居歴無回答7）								
居住地回答数②は、転居経験のある回答者の現居住地								

1-2 回答者の経済状況について

回答者の世帯年収と住居の状況について尋ねている。結果を表 2 ならびに表 3 に示す。

カテゴリ	件数	(全体)%
300万円未満	228	14.4
300万円～500万円未満	392	24.8
500万円～1000万円未満	610	38.6
1000万円以上	297	18.8
無回答	54	3.4
回答者数	1581	100

カテゴリ	件数	(全体)%
戸建て持ち家	1017	64.3
戸建て借家	44	2.8
分譲マンション	274	17.3
賃貸マンション	117	7.4
アパート	57	3.6
その他	45	2.8
無回答	27	1.7
回答者数	1581	100

厚生労働省による国民生活基礎調査（2018）の結果によれば、年間所得 300 万円未満の世帯は 30.6%、300 万円～500 万円未満は 23.7%、500 万円～1000 万円未満は 30.7%、1000 万円以上は 12.2%となっている。国民生活基礎調査の結果が比率だけで個々の標本値がわからないため、検定はできないが、今回の調査の回答者世帯の所得は国民平均と比べると「300 万円未満」の層が少ないという特徴が指摘できる。回答者の経済状況は国民平均の分布よりも高所得層に偏っている印象を受ける。障害を持った子どもの出産を躊躇する理由として経済的な困難を挙げる声はしばしば聞かれるが、今回の調査結果は、こうした懸念を裏付けするものであるかもしれない。

1-3 DS 本人および両親の健康状況について

DS 本人と両親それぞれについて、「過去 10 年の入院歴の有無」「現在の健康状況」について尋ねた結果を表 4～18 に示す。

表4 DSのある本人の過去10年間の入院歴

カテゴリ	件数	(全体)%
ある	788	49.8
ない	783	49.5
無回答	10	0.6
回答者数	1581	100

表5 DSのある本人の現在の健康状況

カテゴリ	件数	(全体)%
おおむね健康で加療中の疾患等はない	535	33.8
おおむね健康ではあるが通院加療中の疾患がある	942	59.6
通院加療中で、日常生活で配慮を要する	267	16.9
入院加療中である	11	0.7
無回答	11	0.7
回答者数	1581	100

表6 DS本人について「おおむね健康ではあるが通院加療中」の場合の診療科目

カテゴリ	件数	(全体)%
内科	278	29.5
小児科	339	36.0
整形外科	220	23.4
歯科	338	35.9
皮膚科	155	16.5
泌尿器科	29	3.1
婦人科	7	0.7
精神科	65	6.9
その他	419	44.5
無回答	4	0.4
回答者数	942	100

表7 DS本人について「通院加療中で、日常生活で配慮を要する」場合の診療科目

カテゴリ	件数	(全体)%
内科	99	37.1
小児科	50	18.7
整形外科	61	22.8
歯科	84	31.5
皮膚科	47	17.6
泌尿器科	12	4.5
婦人科	3	1.1
精神科	39	14.6
その他	104	39.0
無回答	1	0.4
回答者数	267	100

表8 DS本人について「入院加療中である」場合の診療科目

カテゴリ	件数	(全体)%
内科	2	18.2
小児科	4	36.4
整形外科	2	18.2
歯科	0	0.0
皮膚科	1	9.1
泌尿器科	0	0.0
婦人科	0	0.0
精神科	1	9.1
その他	5	45.5
無回答	0	0.0
回答者数	11	100

表9 父親の過去10年間の入院歴

カテゴリ	件数	(全体)%
ある	372	23.5
ない	1050	66.4
無回答	159	10.1
回答者数	1581	100

表10 父親の現在の健康状況

カテゴリ	件数	(全体)%
おおむね健康で加療中の疾患等はない	770	48.7
おおむね健康ではあるが通院加療中の疾患がある	531	33.6
通院加療中で、日常生活で配慮を要する	127	8.0
入院加療中である	7	0.4
無回答	207	13.1
回答者数	1581	100

表11 父親について「おおむね健康ではあるが通院加療中」の場合の診療科目

カテゴリ	件数	(全体)%
内科	390	73.4
整形外科	66	12.4
歯科	67	12.6
皮膚科	41	7.7
泌尿器科	36	6.8
精神科	28	5.3
その他	74	13.9
無回答	6	1.1
回答者数	531	100

表12 父親について「通院加療中で、日常生活で配慮を要する」場合の診療科目

カテゴリ	件数	(全体)%
内科	95	74.8
整形外科	22	17.3
歯科	20	15.7
皮膚科	13	10.2
泌尿器科	14	11.0
精神科	7	5.5
その他	17	13.4
無回答	1	0.8
回答者数	127	100

表13 父親について「入院加療中である」場合の診療科目

カテゴリ	件数	(全体)%
内科	4	57.1
整形外科	1	14.3
歯科	0	0.0
皮膚科	1	14.3
泌尿器科	1	14.3
精神科	0	0.0
その他	3	42.9
無回答	0	0.0
回答者数	7	100

表14 母親の過去10年間の入院歴

カテゴリ	件数	(全体)%
ある	436	27.6
ない	1116	70.6
無回答	29	1.8
回答者数	1581	100

表15 母親の現在の健康状況

カテゴリ	件数	(全体)%
おおむね健康で加療中の疾患等はない	872	55.2
おおむね健康ではあるが通院加療中の疾患がある	596	37.7
通院加療中で、日常生活で配慮を要する	128	8.1
入院加療中である	6	0.4
無回答	63	4.0
回答者数	1581	100

表16 母親について「おおむね健康ではあるが通院加療中」の場合の診療科目

カテゴリ	件数	(全体)%
内科	353	59.2
整形外科	94	15.8
歯科	101	16.9
皮膚科	34	5.7
泌尿器科	9	1.5
産婦人科	71	11.9
精神科	34	5.7
その他	121	20.3
無回答	23	3.9
回答者数	596	100

表17 母親について「通院加療中で、日常生活で配慮を要する」場合の診療科目

カテゴリ	件数	(全体)%
内科	91	71.1
整形外科	32	25.0
歯科	15	11.7
皮膚科	8	6.3
泌尿器科	3	2.3
産婦人科	8	6.3
精神科	13	10.2
その他	32	25.0
無回答	1	0.8
回答者数	128	100

表18 母親について「入院加療中である」場合の診療科目

カテゴリ	件数	(全体)%
内科	1	16.7
整形外科	2	33.3
歯科	1	16.7
皮膚科	0	0.0
泌尿器科	0	0.0
産婦人科	0	0.0
精神科	0	0.0
その他	2	33.3
無回答	0	0.0
回答者数	6	100

DS 本人では、過去 10 年に入院経験があるものが 49.8%で、ほぼ 2 人に 1 人が過去 10 年間に入院経験がある。現在の健康状況としては「おおむね健康で加療中の疾患等はない」は 33.8%に留まり、6 割に近い 59.6%が「おおむね健康ではあるが通院加療中の疾患がある」となっている。これは父親群の 33.6%、母親群の 37.7%に比べて高く、DS 本人がなんらかの健康問題を抱える比率は高いと言うべきであろう。

「おおむね健康ではあるが通院加療中の疾患がある」DS 本人の診療科目は小児科、歯科、内科が 3 割超または 3 割弱を占めている。

一方、現在の健康状態として深刻な課題があることを予測させる「通院加療中で、日常生活で配慮を要する」と「入院加療中である」の回答は、DS 本人ではそれぞれ 16.9%、0.7%で、父親群は 8.0%、0.4%、母親群は 8.1%、0.4%である。その診療科目を見ると、DS 本人では「不明」回答が最も多いが、合わせて 23.7%が「精神科」となっている。古い調査になるが有馬ら（1998）は、成人期の知的障害者における健康問題の 4 分の 1 強を精神症状が占めるという報告をしているが、今回の調査も本人の年齢を加味した分析が必要ではあるものの、数値的には同様の傾向を示していると言える。また、父親群と母親群においても、「通院加療中で、日常生活で配慮を要する」と「入院加療中である」の診療科目で「精神科」という回答がそれぞれ合計で 5.5%、10.2%となっている。これが「高い」数値かどうかの判断は今回の調査だけではできかねる。

II 本人の状況

II-1 本人の性別ならびに年齢分布

DS 本人の性別は、男性 872 名（55.3%）、女性 705 名（44.7%）、無回答 4 名であった。なお、質問票の「本人の年齢」欄が無記入であった回答については、家族構成欄において DS 本人が特定できた場合にはそれに基づいて入力した（ただし、以下の 4 例についてはデータから削除した。★N0.548 長女と長男がそれぞれ就労継続 B と生活介護となっているがどちらも DS が書いてないため削除★No.425 長男長女が「会社員」「地域支援センター勤務」となっているがどちらにも DS 記載がないため削除★No.823 長男次女がいずれも支援学級だがどちらにも DS の記載がないため削除★No.731 長男次男とも支援学校中学部と小学校支援学級で長男には自閉症の備考があるがどちらにも DS 記載がないため削除）。

年齢別のヒストグラムを図 1（全体）、図 2（男性）、図 3（女性）に示す。平均年齢は男性が 18.79 歳、女性が 19.16 歳で、男女間の有意差は認められなかった（t 検定、 p （両側）=0.52810216）。最低年齢は男女ともに 0 歳、最高年齢は男性が 52 歳、女性が 53 歳でいずれも 1 名だった。中央値は男女ともに 17.5 歳であった。

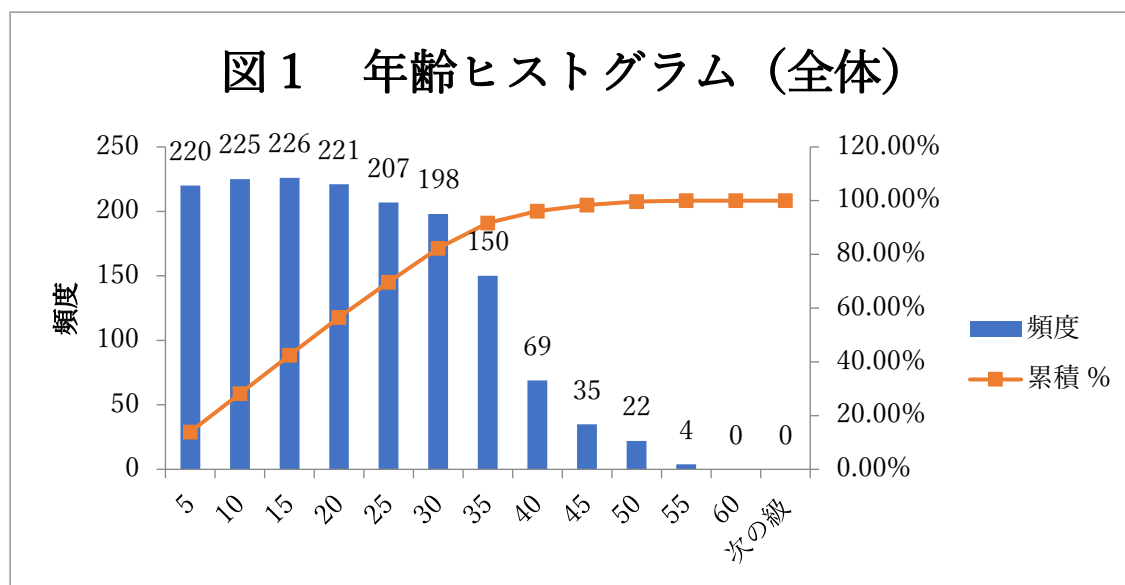


図2 年齢ヒストグラム (男性)

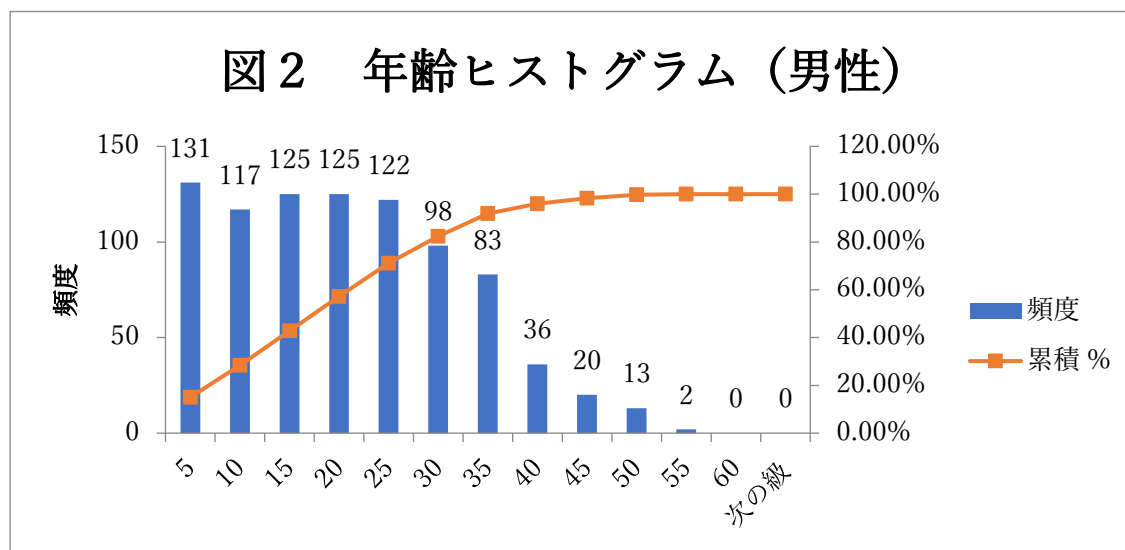
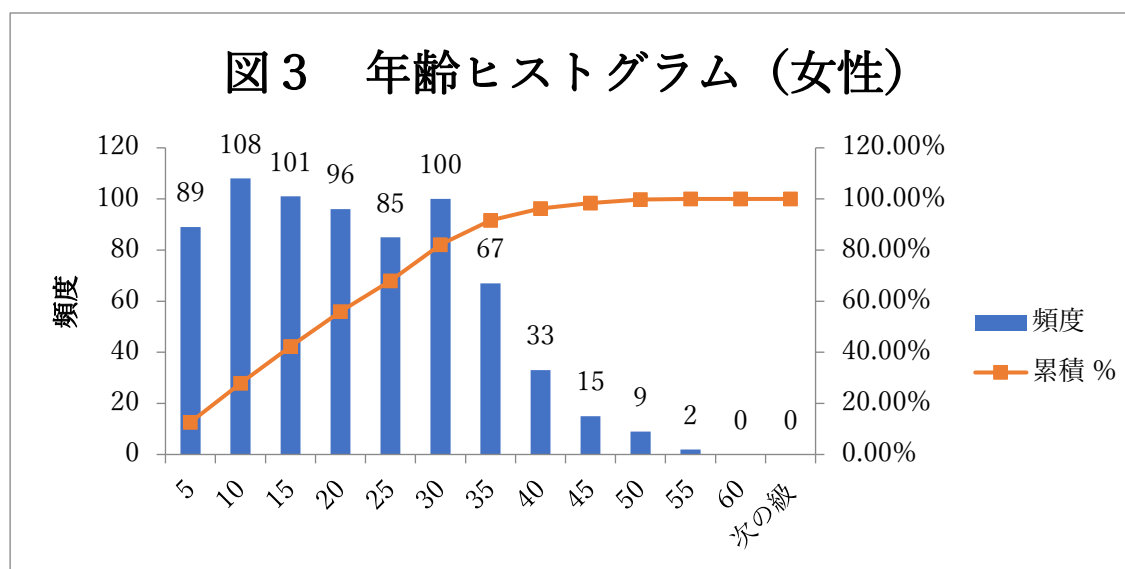


図3 年齢ヒストグラム (女性)



II-2 療育手帳取得の年齢

療育手帳取得時の年齢を表 19 に示す。約 1 割の無回答があるが、回答があった者を母数にすると、6 割弱が 2 歳代までに、8 割弱が 3 歳代までに取得している。厚生労働省が平成 28 年に実施した「生活のしづらさなどに関する調査(全国在宅 障害児・者等実態調査)」結果では、療育手帳の取得は 0～9 歳で 36.9%、10～17 歳で

19.1%、18～19歳で3.9%となっており、DSのある子どもの手帳取得は知的障害全体からすれば際だって低年齢期に集中していることがわかる。

カテゴリ	件数	(全体)%	回答があった者を母数にした場合の% (累積%)
0歳	124	7.8	8.7 (8.7)
1歳	452	28.6	31.5 (40.1)
2歳	281	17.8	19.6 (59.7)
3歳	284	18.0	19.8 (79.5)
4～5歳	110	7.0	7.7 (87.2)
6～12歳	133	8.4	9.3 (96.5)
13～19歳	37	2.3	2.6 (99.1)
20歳以上	12	0.8	0.8 (99.9)
無回答	148	9.4	
回答者数	1581	100	1433

II-3 日中の活動

表20に、DS本人の現在の日中活動の内訳を示した。約半数が現在学校段階にある。この群と無回答を除いた、現在学校教育を修了して就労段階にあると考えられる者を母数とした比率で見ると、就労継続B型と生活介護の利用者が8割を超えている。その一方で、「一般就労」「一般企業の障害者枠雇用」「特例子会社」の合わせると9.7%に達しており、ここに「就労継続A型」を合わせると12.6%で、ほぼ8人にひとりは何らかの形で「雇用」に到達していることがわかる。

カテゴリ	件数	(全体)%	就労段階を母数とした%
通園・通学	752	47.6	
一般就労	13	0.8	1.6
一般企業に障害者枠での就労	49	3.1	6.2
特例子会社就労	15	0.9	1.9
自営の手伝い	5	0.3	0.6
就労移行支援事業所	24	1.5	3.0
就労継続A型	23	1.5	2.9
就労継続B型	398	25.2	50.5
生活介護事業所	236	14.9	29.9
何もしていない	44	2.8	5.6
無回答	41	2.6	
回答者数	1581	100	788

II-4 現在の生活の様子

表 21～37 に、ダウン症のある人の現在の生活の様子を男女別に示した。質問項目は障害者支援区分認定に用いられる評価項目である。この集計結果からだけでは深い意味の考察はできないが、すべての項目において自立度は女性群が上回っている。年齢との比較検討をすることで、DSのある人のおおまかな発達の状況（加齢による機能低下を含めて）を把握することも可能かもしれない。この点は第二報で取り扱う。

カテゴリ	男性 (%)		女性 (%)		合計	(全体)%
ほぼ自分で行える	546	62.6	484	68.7	1030	65.3
一部手伝いが必要	213	24.4	155	22	368	23.3
かなり手伝いが必要	77	8.8	43	6.1	120	7.6
自分では全くできない	32	3.7	15	2.1	47	3.0
無回答	4	0.5	8	1.1	12	0.8
回答者数	872	100	705	100	1577	100.0

カテゴリ	男性 (%)		女性 (%)		合計	(全体)%
ほぼ自分でできる	491	56.3	435	61.7	926	58.7
一部手伝いが必要	244	28	181	25.7	425	26.9
かなり手伝いが必要	86	9.9	56	7.9	142	9
自分では全くできない	48	5.5	26	3.7	74	4.7
無回答	3	0.3	7	1	10	0.6
回答者数	872	100	705	100	1577	100

カテゴリ	男性 (%)		女性 (%)		合計	(全体)%
ほぼ自分でできる	256	29.4	268	38	524	33.2
一部手伝いが必要	327	37.5	245	34.8	572	36.3
かなり手伝いが必要	185	21.2	134	19	319	20.2
自分では全くできない	98	11.2	51	7.2	149	9.4
無回答	6	0.7	7	1	13	0.8
回答者数	872	100	705	100	1577	100

カテゴリ	男性 (%)		女性 (%)		合計	(全体)%
ほぼ自分でできる	350	40.1	296	42	646	41
一部手伝いが必要	269	30.8	239	33.9	508	32.2
かなり手伝いが必要	147	16.9	114	16.2	261	16.6
自分では全くできない	101	11.6	51	7.2	152	9.6
無回答	5	0.6	5	0.7	10	0.6
回答者数	872	100	705	100	1577	100

カテゴリ	男性 (%)		女性 (%)		合計	(全体)%
ほぼ自分でできる	577	66.2	506	71.8	1083	68.7
一部手伝いが必要	142	16.3	105	14.9	247	15.7
かなり手伝いが必要	78	8.9	54	7.7	132	8.4
自分では全くできない	70	8	36	5.1	106	6.7
無回答	5	0.6	4	0.6	9	0.6
回答者数	872	100	705	100	1577	100

カテゴリ	男性 (%)		女性 (%)		合計	(全体)%
ほぼ自分でできる	420	48.2	405	57.4	825	52.3
一部手伝いが必要	261	29.9	177	25.1	438	27.8
かなり手伝いが必要	96	11	72	10.2	168	10.7
自分では全くできない	89	10.2	44	6.2	133	8.4
無回答	6	0.7	7	1	13	0.8
回答者数	872	100	705	100	1577	100

カテゴリ	男性 (%)		女性 (%)		合計	(全体)%
ほぼ自分ができる	72	8.3	69	9.8	141	8.9
一部手伝いが必要	225	25.8	215	30.5	440	27.9
かなり手伝いが必要	191	21.9	152	21.6	343	21.8
自分では全くできない	375	43	262	37.2	637	40.4
無回答	9	1	7	1	16	1
回答者数	872	100	705	100	1577	100

カテゴリ	男性 (%)		女性 (%)		合計	(全体)%
ほぼ自分ができる	82	9.4	77	10.9	159	10.1
一部手伝いが必要	157	18	151	21.4	308	19.5
かなり手伝いが必要	108	12.4	70	9.9	178	11.3
自分では全くできない	350	40.1	242	34.3	592	37.5
無回答	175	20.1	165	23.4	340	21.6
回答者数	872	100	705	100	1577	100

カテゴリ	男性 (%)		女性 (%)		合計	(全体)%
ほぼ自分ができる	5	0.6	16	2.3	21	1.3
一部手伝いが必要	83	9.5	75	10.6	158	10
かなり手伝いが必要	179	20.5	164	23.3	343	21.8
自分では全くできない	593	68	444	63	1037	65.8
無回答	12	1.4	6	0.9	18	1.1
回答者数	872	100	705	100	1577	100

カテゴリ	男性 (%)		女性 (%)		合計	(全体)%
ほぼ自分ができる	104	11.9	125	17.7	229	14.5
一部手伝いが必要	156	17.9	128	18.2	284	18
かなり手伝いが必要	177	20.3	143	20.3	320	20.3
自分では全くできない	427	49	300	42.6	727	46.1
無回答	8	0.9	9	1.3	17	1.1
回答者数	872	100	705	100	1577	100

カテゴリ	男性 (%)		女性 (%)		合計	(全体)%
ほぼ自分ができる	116	13.3	122	17.3	238	15.1
一部手伝いが必要	271	31.1	229	32.5	500	31.7
かなり手伝いが必要	284	32.6	211	29.9	495	31.4
自分では全くできない	191	21.9	135	19.1	326	20.7
無回答	10	1.1	8	1.1	18	1.1
回答者数	872	100	705	100	1577	100

表32【現在の様子】日常生活での危険の認識（男女別）

カテゴリ	男性 (%)		女性 (%)		合計	(全体)%
ほぼ自分でできる	115	13.2	99	14	214	13.6
一部手伝いが必要	284	32.6	260	36.9	544	34.5
かなり手伝いが必要	265	30.4	192	27.2	457	29
自分では全くできない	196	22.5	148	21	344	21.8
無回答	12	1.4	6	0.9	18	1.1
回答者数	872	100	705	100	1577	100

表33【現在の様子】調理（男女別）

カテゴリ	男性 (%)		女性 (%)		合計	(全体)%
ほぼ自分でできる	8	0.9	14	2	22	1.4
一部手伝いが必要	51	5.8	80	11.3	131	8.3
かなり手伝いが必要	316	36.2	301	42.7	617	39.1
自分では全くできない	484	55.5	305	43.3	789	50
無回答	13	1.5	5	0.7	18	1.1
回答者数	872	100	705	100	1577	100

表34【現在の様子】自分の居住空間の掃除（男女別）

カテゴリ	男性 (%)		女性 (%)		合計	(全体)%
ほぼ自分でできる	47	5.4	49	7	96	6.1
一部手伝いが必要	163	18.7	155	22	318	20.2
かなり手伝いが必要	321	36.8	275	39	596	37.8
自分では全くできない	329	37.7	221	31.3	550	34.9
無回答	12	1.4	5	0.7	17	1.1
回答者数	872	100	705	100	1577	100

表35【現在の様子】自分の衣服の洗濯（男女別）

カテゴリ	男性 (%)		女性 (%)		合計	(全体)%
ほぼ自分でできる	29	3.3	42	6	71	4.5
一部手伝いが必要	113	13	106	15	219	13.9
かなり手伝いが必要	183	21	174	24.7	357	22.6
自分では全くできない	536	61.5	376	53.3	912	57.8
無回答	11	1.3	7	1	18	1.1
回答者数	872	100	705	100	1577	100

表36【現在の様子】日常品の買い物（男女別）

カテゴリ	男性 (%)		女性 (%)		合計	(全体)%
ほぼ自分でできる	25	2.9	21	3	46	2.9
一部手伝いが必要	91	10.4	106	15	197	12.5
かなり手伝いが必要	260	29.8	231	32.8	491	31.1
自分では全くできない	485	55.6	341	48.4	826	52.4
無回答	11	1.3	6	0.9	17	1.1
回答者数	872	100	705	100	1577	100

カテゴリ	男性 (%)		女性 (%)		合計	(全体)%
ほぼ自分でできる	62	7.1	57	8.1	119	7.5
一部手伝いが必要	165	18.9	125	17.7	290	18.4
かなり手伝いが必要	187	21.4	182	25.8	369	23.4
自分では全くできない	445	51	333	47.2	778	49.3
無回答	13	1.5	8	1.1	21	1.3
回答者数	872	100	705	100	1577	100

II-5 DSのある人の日常生活の状況

DSのある人の現在の日常生活状況（複数回答）について、この項目に無回答であった371名を除いた1210名（男性664名、女性543名、性別不明3名）の回答を男女別にまとめたものを表38に示す。

この結果も、年齢その他の要因との比較検討が必要である。「こだわり」が男女ともに半数以上の回答者で報告されており、「何度も同じ話をする」の28.02%、「支援を拒否する」の20.58%と合わせて考えれば、日常生活における困難も予想される。この3つの行動特徴以外で10%以上の回答になった項目を列挙すると「被害的・拒否的な態度」「作話」「感情が不安定」「大声・奇声を出す」「物を収集してためこむ」「多動であったり、反対に行動が停止したりする」「自らを傷つける行為」「同じ行動を何度も繰り返す」「対人関係での不安や緊張が強い」「話がまとまらない」「集中力が続かない」「集団生活への不適應がある」となる。

No	カテゴリ	男性		女性		性別不明	小計	
		回答数	%	回答数	%		回答数	%
1	被害的・拒否的な態度	89	13.4	54	9.94	0	143	11.82
2	作話(作り話をする)	97	14.61	90	16.57	0	187	15.45
3	感情が不安定	86	12.95	93	17.13	1	180	14.88
4	昼夜逆転	23	3.46	19	3.5	0	42	3.47
5	暴言暴行がある	37	5.57	24	4.42	1	62	5.12
6	何度も同じ話をする	169	25.45	168	30.94	2	339	28.02
7	大声・奇声を出す	144	21.69	60	11.05	2	206	17.02
8	支援をしようとしても拒否する	136	20.48	112	20.63	1	249	20.58
9	徘徊	6	0.9	4	0.74	0	10	0.83
10	落ち着きがない	67	10.09	35	6.45	0	102	8.43
11	外出すると戻れなくなることがある	51	7.68	39	7.18	0	90	7.44
12	適切ではない時間に1人で外に出たがる	17	2.56	7	1.29	0	24	1.98
13	物を収集するためこむ	83	12.5	79	14.55	0	162	13.39
14	物や衣類を壊す	53	7.98	22	4.05	0	75	6.2
15	身の回りや室内を不潔にする行為	41	6.17	28	5.16	0	69	5.7
16	異食(一般的な食べ物ではないものを口に入れてしまう)	40	6.02	19	3.5	0	59	4.88
17	ひどい物忘れ	6	0.9	7	1.29	0	13	1.07
18	こだわり	355	53.46	286	52.67	1	642	53.06
19	多動であったり、反対に行動が停止したりする	74	11.14	53	9.76	0	127	10.5
20	不安定な行動	32	4.82	30	5.52	0	62	5.12
21	自らを傷つける行為	76	11.45	45	8.29	0	121	10
22	他人を傷つける行為	39	5.87	20	3.68	0	59	4.88
23	その他の不適切な行為	50	7.53	30	5.52	0	80	6.61
24	突発的な行動	76	11.45	42	7.73	0	118	9.75
25	食べ過ぎや、吐き戻し、反すうがある	39	5.87	29	5.34	0	68	5.62
26	気分が高いになったり、落ち込んだりと波がある	46	6.93	57	10.5	0	103	8.51
27	同じ行動を何度もくり返す	93	14.01	34	6.26	0	127	10.5
28	対人関係での不安や緊張が強い	76	11.45	84	15.47	0	160	13.22
29	意欲が乏しい	62	9.34	46	8.47	0	108	8.93
30	話がまとまらない	106	15.96	96	17.68	0	202	16.69
31	集中力が続かない	152	22.89	122	22.47	0	274	22.64
32	自分を過大評価してしまう	52	7.83	44	8.1	0	96	7.93
33	集団生活への不適応がある	68	10.24	72	13.26	0	140	11.57
34	水を飲み過ぎる	44	6.63	24	4.42	0	68	5.62
	回答者数	664		543		3	1210	

II-6 1年前との行動の変化

表 39～表 58 に、DS のある人の行動が 1 年前と比較してどう変化しているかについて尋ねた結果を示す。なお、この質問では、最初の 10 問が「意欲が低下した」「集中力が低下した」など、否定的な変化について尋ねる設問であったため、回答判断がしやすかったのではないと思われる。これに対して後半の設問に対しては明らかに無回答が多くなり、半数超となっている。これは、設問形式が「～でき

る」といった肯定的形式になったために、回答判断がしにくくなったのではないかと考えられる（最後の2問は再び否定的な設問形式になっているが、これはそれまでの設問への回答の流れを引きずってしまったのかもしれない。本人の年齢別に分けての分析が必要と思われる）。

表39【1年前との変化】勉学や作業への意欲が低下した（男女別）

カテゴリ	男性	%	女性	%	小計	%
そう思う	31	3.56	25	3.55	56	3.6
ややそう思う	64	7.34	48	6.81	112	7.1
ややそう思わない	91	10.44	53	7.52	144	9.1
そう思わない	664	76.15	562	79.72	1226	77.7
無回答	22	2.52	17	2.41	39	2.5
回答者数	872	100	705	100	1577	100.0

表40【1年前との変化】勉学や作業への集中力が低下した（男女別）

カテゴリ	男性	%	女性	%	小計	%
そう思う	29	3.33	23	3.26	52	3.3
ややそう思う	66	7.57	44	6.24	110	7.0
ややそう思わない	99	11.35	62	8.79	161	10.2
そう思わない	652	74.77	559	79.29	1211	76.8
無回答	26	2.98	17	2.41	43	2.7
回答者数	872	100	705	100	1577	100.0

表41【1年前との変化】勉学や作業する量が減った（男女別）

カテゴリ	男性	%	女性	%	小計	%
そう思う	38	4.36	30	4.26	68	4.3
ややそう思う	85	9.75	49	6.95	134	8.5
ややそう思わない	82	9.4	61	8.65	143	9.1
そう思わない	642	73.62	547	77.59	1189	75.4
無回答	25	2.87	18	2.55	43	2.7
回答者数	872	100	705	100	1577	100.0

表42【1年前との変化】動作が緩慢になった（男女別）

カテゴリ	男性	%	女性	%	小計	%
そう思う	42	4.82	47	6.67	89	5.6
ややそう思う	104	11.93	91	12.91	195	12.4
ややそう思わない	85	9.75	80	11.35	165	10.5
そう思わない	626	71.79	472	66.95	1098	69.6
無回答	15	1.72	15	2.13	30	1.9
回答者数	872	100	705	100	1577	100.0

表43【1年前との変化】歩行に時間がかかる、距離を歩けなくなった（男女別）

カテゴリ	男性	%	女性	%	小計	%
そう思う	39	4.47	38	5.39	77	4.9
ややそう思う	84	9.63	100	14.18	184	11.7
ややそう思わない	70	8.03	73	10.35	143	9.1
そう思わない	663	76.03	479	67.94	1142	72.4
無回答	16	1.83	15	2.13	31	2.0
回答者数	872	100	705	100	1577	100.0

表44【1年前との変化】体力が低下した（男女別）

カテゴリ	男性	%	女性	%	小計	%
そう思う	43	4.93	33	4.68	76	4.8
ややそう思う	112	12.84	129	18.3	241	15.3
ややそう思わない	92	10.55	73	10.35	165	10.5
そう思わない	611	70.07	456	64.68	1067	67.7
無回答	14	1.61	14	1.99	28	1.8
回答者数	872	100	705	100	1577	100.0

表45【1年前との変化】物忘れが多くなった（男女別）

カテゴリ	男性	%	女性	%	小計	%
そう思う	15	1.72	9	1.28	24	1.5
ややそう思う	35	4.01	42	5.96	77	4.9
ややそう思わない	85	9.75	57	8.09	142	9.0
そう思わない	717	82.22	575	81.56	1292	81.9
無回答	20	2.29	22	3.12	42	2.7
回答者数	872	100	705	100	1577	100.0

表46【1年前との変化】他者との関わりを好まなくなった（男女別）

カテゴリ	男性	%	女性	%	小計	%
そう思う	11	1.26	11	1.56	22	1.4
ややそう思う	43	4.93	47	6.67	90	5.7
ややそう思わない	77	8.83	54	7.66	131	8.3
そう思わない	726	83.26	576	81.7	1302	82.6
無回答	15	1.72	17	2.41	32	2.0
回答者数	872	100	705	100	1577	100.0

表47【1年前との変化】会話が減った（男女別）

カテゴリ	男性	%	女性	%	小計	%
そう思う	25	2.87	24	3.4	49	3.1
ややそう思う	42	4.82	40	5.67	82	5.2
ややそう思わない	55	6.31	44	6.24	99	6.3
そう思わない	727	83.37	574	81.42	1301	82.5
無回答	23	2.64	23	3.26	46	2.9
回答者数	872	100	705	100	1577	100.0

表48【1年前との変化】頑固になってきた（男女別）

カテゴリ	男性	%	女性	%	小計	%
そう思う	55	6.31	49	6.95	104	6.6
ややそう思う	211	24.2	156	22.13	367	23.3
ややそう思わない	119	13.65	99	14.04	218	13.8
そう思わない	472	54.13	385	54.61	857	54.3
無回答	15	1.72	16	2.27	31	2.0
回答者数	872	100	705	100	1577	100.0

表49【1年前との変化】情緒が不安定になった（男女別）

カテゴリ	男性	%	女性	%	小計	%
そう思う	24	2.75	26	3.69	50	3.2
ややそう思う	82	9.4	73	10.35	155	9.8
ややそう思わない	103	11.81	104	14.75	207	13.1
そう思わない	644	73.85	485	68.79	1129	71.6
無回答	19	2.18	17	2.41	36	2.3
回答者数	872	100	705	100	1577	100.0

表50【1年前との変化】こだわりが強くなってきた（男女別）

カテゴリ	男性	%	女性	%	小計	%
そう思う	58	6.65	45	6.38	103	6.5
ややそう思う	192	22.02	158	22.41	350	22.2
ややそう思わない	130	14.91	111	15.74	241	15.3
そう思わない	471	54.01	376	53.33	847	53.7
無回答	21	2.41	15	2.13	36	2.3
回答者数	872	100	705	100	1577	100.0

表51【1年前との変化】自分の意思を伝達できる（男女別）

カテゴリ	男性	%	女性	%	小計	%
そう思う	92	10.55	106	15.04	198	12.6
ややそう思う	163	18.69	138	19.57	301	19.1
ややそう思わない	86	9.86	49	6.95	135	8.6
そう思わない	77	8.83	56	7.94	133	8.4
無回答	454	52.06	356	50.5	810	51.4
回答者数	872	100	705	100	1577	100.0

表52【1年前との変化】毎日の日課を理解できる（男女別）

カテゴリ	男性	%	女性	%	小計	%
そう思う	187	21.44	177	25.11	364	23.1
ややそう思う	128	14.68	102	14.47	230	14.6
ややそう思わない	37	4.24	25	3.55	62	3.9
そう思わない	66	7.57	45	6.38	111	7.0
無回答	454	52.06	356	50.5	810	51.4
回答者数	872	100	705	100	1577	100.0

表53【1年前との変化】自分の生年月日や年齢を言うことができる（男女別）

カテゴリ	男性	%	女性	%	小計	%
そう思う	145	16.63	172	24.4	317	20.1
ややそう思う	58	6.65	54	7.66	112	7.1
ややそう思わない	42	4.82	28	3.97	70	4.4
そう思わない	169	19.38	96	13.62	265	16.8
無回答	458	52.52	355	50.35	813	51.6
回答者数	872	100	705	100	1577	100.0

表54【1年前との変化】じぶんの名前を言うことができる（男女別）

カテゴリ	男性	%	女性	%	小計	%
そう思う	262	30.05	262	37.16	524	33.2
ややそう思う	35	4.01	20	2.84	55	3.5
ややそう思わない	18	2.06	13	1.84	31	2.0
そう思わない	99	11.35	54	7.66	153	9.7
無回答	458	52.52	356	50.5	814	51.6
回答者数	872	100	705	100	1577	100.0

表55【1年前との変化】今の季節が理解できる（男女別）

カテゴリ	男性	%	女性	%	小計	%
そう思う	145	16.63	168	23.83	313	19.9
ややそう思う	102	11.7	68	9.65	170	10.8
ややそう思わない	54	6.19	38	5.39	92	5.8
そう思わない	112	12.84	75	10.64	187	11.9
無回答	459	52.64	356	50.5	815	51.7
回答者数	872	100	705	100	1577	100.0

表56【1年前との変化】自分が今いる場所を理解できる（男女別）

カテゴリ	男性	%	女性	%	小計	%
そう思う	226	25.92	216	30.64	442	28.0
ややそう思う	103	11.81	75	10.64	178	11.3
ややそう思わない	23	2.64	20	2.84	43	2.7
そう思わない	62	7.11	37	5.25	99	6.3
無回答	458	52.52	357	50.64	815	51.7
回答者数	872	100	705	100	1577	100.0

表57【1年前との変化】慣れた道で迷うことがある（男女別）

カテゴリ	男性	%	女性	%	小計	%
そう思う	8	0.92	12	1.7	20	1.3
ややそう思う	30	3.44	34	4.82	64	4.1
ややそう思わない	73	8.37	56	7.94	129	8.2
そう思わない	298	34.17	243	34.47	541	34.3
無回答	463	53.1	360	51.06	823	52.2
回答者数	872	100	705	100	1577	100.0

表58【1年前との変化】趣味が減った、楽しまなくなった（男女別）

カテゴリ	男性	%	女性	%	小計	%
そう思う	22	2.52	15	2.13	37	2.4
ややそう思う	50	5.73	53	7.52	103	6.5
ややそう思わない	62	7.11	52	7.38	114	7.2
そう思わない	280	32.11	228	32.34	508	32.2
無回答	458	52.52	357	50.64	815	51.7
回答者数	872	100	705	100	1577	100.0

II - 7 認知症に関連する質問項目

DS 本人が 20 歳以上である回答者について、認知症との関連について尋ねている。表 59 は、現在の生活で DS 本人に認知症ではないかと感じる点があるかどうかを尋ねた結果である。

表59 普段の生活で認知症ではないかと感じたことの有無

カテゴリ	件数	(全体)%
感じたことがない	660	88.2
感じたことがある	85	11.4
認知症の診断を受けている	3	0.4
回答者数	748	100.0

認知症と診断を受けているのは3名に過ぎないが、成人段階のDS本人の11.4%で「認知症かもしれない」と感じている。

続いて、現時点でDS本人が認知症であるとは感じていない回答者に対して、もしも認知症になったとしたら何を不安視しているかを尋ねた結果を表60に示す。回答は複数回答である。「日常生活の継続」に不安を感じるという回答が圧倒的に多いが、ここには「家族や周囲の人にかかる負担」「DSのある子どもの性格や行動の変化」という、いずれも50%を超える回答に示された不安が関連していると考えられる。ついで、「DSの子どもを介護してくれる人がいるかどうか」という不安が48%となっている。

カテゴリ	件数	(全体)%
相談先・受診先がわからないこと	153	23.2
家族や周囲の人にかかる負担	361	54.7
治療による経済的負担	64	9.7
DSのある子どもの性格や行動の変化	394	59.7
DSのある子どもを介護してくれる人がいるかどうか	317	48.0
日常生活の継続	510	77.3
不安に感じることはない	13	2.0
その他	22	3.3
無回答	10	1.5
回答者数	660	100

次に、DS 本人が認知症ではないかと感じている、またすでに認知症の診断を受けている回答者に対して、認知症を疑った症状を尋ねている。結果を表 61 に示す。

カテゴリ	件数	(全体)%
全体的に疲れて見える	26	29.5
動作が遅くなってきた	61	69.3
以前より無表情になった	38	43.2
歩行が遅くなった	37	42.0
話すことが少なくなった	30	34.1
作業の途中で手を止めてしまう	25	28.4
睡眠パターンが変わった（より寝るようになった、寝る時間が減った）	29	33.0
体を洗う／入浴することが介助なしにできなくなった	36	40.9
日中活動や戸外活動に参加しなくなった	29	33.0
混乱しやすくなった	12	13.6
1人の世界にふけるようになった	42	47.7
失禁をするようになった（時々、まれに、を含む）	25	28.4
涙もろくなったり取り乱しやすくなってきた	13	14.8
その他	18	20.5
無回答	3	3.4
回答者数	88	100

回答を大別すると、まず運動面の機能低下（「動作が遅くなってきた（69.3%）」「歩行が遅くなった（42.0%）」「全体的に疲れて見える（29.5%）」）が挙げられる。次に、情緒面の変容と考えられる症状がある（「以前より無表情になった（43.2%）」「話すことが少なくなった（34.1%）」「涙もろくなったり取り乱しやすくなってきた（14.8%）」）。さらに、遂行機能の障害と考えられる症状がある（「1人の世界にふけるようになった（47.7%）」「体を洗う／入浴することが介助

なしにできなくなった（40.9%）」「睡眠パターンが変わった（33.0%）」「日中活動や戸外活動に参加しなくなった（33.0%）」「作業の途中で手を止めてしまう（28.4%）」「失禁するようになった（28.4%）」）。これらに対して、一般的には認知症の初期症状で中心的であるとされる短期記憶の機能低下を示すと考えられる「混乱しやすくなった」は13.6%に留まっている。

現時点で認知症という診断を受けていない回答者に対して、家族・親戚・知人以外の相談先について尋ねた結果を表62に示す。

カテゴリ	件数	(全体)%
区役所	160	21.5
地域包括支援センター（在宅介護支援センター）	217	29.1
介護関連施設（2. 以外の）ケアマネジャー	195	26.2
かかりつけ医	395	53.0
認知症専門医	99	13.3
ボランティア団体	17	2.3
相談先が分からない	47	6.3
家族・親戚・知人以外には相談しない	8	1.1
だれにも相談しない	2	0.3
その他	135	18.1
無回答	27	3.6
回答者数	745	100

まず医療（「かかりつけ医（53.0%）」「認知症専門医（13.3%）」）が主たる相談先と想定されており、次いで福祉領域（「地域包括支援センター（29.1%）」「ケ

アマネジャー（26.2%）」となる。また、「区役所」という回答も全体の2割を超えている（21.5%）が、こうした身近な住民窓口でダウン症と認知症の関連についての知識が十分であるかどうかについては検討が必要であろう。現在、新オレンジプランのもとで自治体には認知症初期集中治療チームの設置などが求められてきているが、こうした体制の中でダウン症と認知症の関連についての正確な情報が共有されることで、ごく少数とはいえ「家族・親戚・知人以外には相談しない（1.1%）」「だれにも相談しない（0.3%）」という回答者に対するサポートが生みだされていくことが期待される。

現時点で認知症の診断を受けているという回答は3件のみだったが、この3名を対象として、受診先ならびに現在困っている点について尋ねた結果を表63、64に示す。

カテゴリ	件数	(全体)%
かかりつけの内科医	1	33.3
かかりつけの小児科医	0	0.0
認知症専門医	2	66.7
施設担当医	0	0.0
決まった担当医はいない	0	0.0
その他	0	0.0
無回答	0	0.0
回答者数	3	100

カテゴリ	件数	(全体)%
相談する相手がいない	0	0.0
入所する施設がない	1	33.3
ダウン症を理解し親身に診てくれる医師がいない	0	0.0
経済的問題	0	0.0
認知症についての情報が無い	2	66.7
その他	0	0.0
無回答	0	0.0
回答者数	3	100

最後に、DS 本人が認知症になったとして、必要と思われるサポート内容について尋ねた結果を表 65 に示す。59.1%にのぼる無回答の存在は、現時点でまだ「ダウン症と認知症」という結びつきが当事者にもイメージしにくいということを窺わせているのではないかと考えられる。

カテゴリ	件数	(全体)%
入所施設など受け皿となる施設の拡充	280	17.7
診療や入所の話をする相談窓口の設置	40	2.5
ダウン症を理解してくれる認知症専門医の増加	196	12.4
福祉サービスの充実	109	6.9
認知症治療薬の開発	17	1.1
その他	4	0.3
無回答	935	59.1
回答者数	1581	100

II - 8 就学前の所属ならびに学校段階の教育措置

ここでは、まず全体の傾向を男女別にして、表 66～69 に示す。

カテゴリ	男性		女性		合計
	件数	%	件数	%	
在宅	4	0.5	2	0.3	6
保育園・幼稚園等	310	35.6	276	39.1	586
保育園等と療育機関の並行利用	189	21.7	152	21.6	341
療育機関	107	12.3	93	13.2	200
療育機関を経て保育園等利用	245	28.1	168	23.8	413
無回答	17	1.9	14	2	31
合計	872	100	705	100	1577

カテゴリ	男性		女性		合計
	件数	%	件数	%	
通常学級	87	11.7	114	18.5	201
支援学級	390	52.6	322	52.3	712
特別支援学校	150	20.2	85	13.8	235
支援学級→支援学校	24	3.2	14	2.3	38
通常学級→支援学級	70	9.4	67	10.9	137
支援学校→支援学級	2	0.3	2	0.3	4
通常学級→支援学級→支援学校	1	0.1	1	0.2	2
通常学級→支援学校	4	0.5	1	0.2	5
その他	2	0.3	3	0.5	5
無回答	11	1.5	7	1.1	18
合計	741	100	616	100	1357

カテゴリ	男性		女性		合計
	件数	%	件数	%	
通常学級	31	5.3	57	11.8	88
支援学級	256	43.5	217	44.8	473
特別支援学校	281	47.7	197	40.7	478
支援学級→支援学校	1	0.2	2	0.4	3
通常学級→支援学級	4	0.7	2	0.4	6
その他	0	0	2	0.4	2
無回答	16	2.7	7	1.4	23
合計	589	100	484	100	1073

カテゴリ	男性		女性		合計
	件数	%	件数	%	
定時制・通信制高校、サポート校等	11	2.1	33	7.8	44
特別支援学校	489	95.1	372	87.9	861
その他	4	0.8	4	0.9	8
無回答	10	1.9	14	3.3	24
合計	514	100	423	100	937

このうち、「小学校段階」「中学校段階」「高等学校段階」においては、 χ^2 検定で1%水準の有意差が検出された。「小学校段階」では、特別支援学校に所属する者が男性では有意に多く、女性では有意に少なかった。「中学校段階」では、通常学級に所属する者が男性では有意に少なく、女性では有意に多かった。「高等学校段階」では、定時制・通信制高校等に所属する者が男性では有意に少なく、女性では有意に多かった。

なお、「その他」に分類された回答の例としては、以下のようなものがあった。

○小学校段階

- ・小1と小2で支援学級に在籍し、小3と小4で通常学級に転籍し、小5と小6で再び支援学級に転籍している。
- ・小3まで支援学級に在籍し、小4から卒業までは通常学級に在籍している。
- ・支援学級に就学した後、転居によって支援学校に転籍し、その後支援学級に転籍している。
- ・支援学校に就学した後、支援学級に転籍している。

- ・ 支援学校に就学した後、地域の小学校（学級種別は不明）に転籍している。

○中学校段階

- ・ 支援学級に入学したが、途中で海外に転籍している。
- ・ サポート校を利用した。

○高等学校段階

- ・ 進学していない。
- ・ 中学卒業後は通園施設に通所した。
- ・ 海外の学校に在籍している。

教育措置については世代によって大きな違いが生ずる可能性が高い。とりわけ、平成 19 年から特別支援教育体制がスタートしており、就学指導の考え方も変化しているため、この前後での変化等も考察する必要がある。こうした詳細な分析は第二報で行いたい。

III 保護者の心理状況

今回の調査では、保護者の心理状況に関連する質問項目として「多次元的共感性尺度（登張 2003）」30 項目、「精神的回復力尺度（小塩ら 2002）」21 項目、「主

観的幸福度尺度（伊藤ら 2003）」15 項目、日常生活における励ましのリソースならびにストレスラーについて尋ねる項目各 18 項目を設定した。それぞれの尺度ごとの結果を記す前に、この部分の集計・分析の前提となるデータの整形について述べる。

「多次元共感性尺度」と「精神的回復力尺度」はいずれも 5 件法による回答である。得点が高くなるほど「共感性がある」「回復力がある」と判定される構造になっている。「多次元共感性尺度」では項目 8 と項目 9 が逆転項目になっている。「精神的回復力尺度」では項目 14、16～21 が逆転項目になっている。集計にあたってはこれらの項目は判定の方向性が他の項目と同様になるようデータを整形した。尺度である以上、完全な回答が必要になるが、無回答や 5 件の選択肢の中間に回答した例なども見られた。そのため、集計にあたってはこうした回答データを除外し、完全回答のもののみを対象とした。第一報では父親群と母親群のそれぞれについて単純集計と因子分析結果を示しているが、データ数を可能な限り多くするため、こうした手続きにおいては父親群と母親群それぞれで完全回答のデータはすべて対象とした。しかし、両親間の差（性差）を検討するにあたっては、両親（夫婦）という「対応のあるペア」での分析が必要なため、両親ともに尺度に対して完全回答であったデータのみを対象とした。「主観的幸福度尺度」は 4 件法による回答であるが、データ整形の考え方は同様である。

III - 1 多次元的共感性尺度について

多次元的共感性尺度は原本では4因子構造で評価することになっているが、この尺度が開発段階では主として青年層を対象にしていたことから、成人～高齢者層までも含む今回の調査で使用するにあたり、あらためて因子分析を実施した。主因子法を用い、因子間に正の相関が生じることが想定されたため、斜交回転で実施した。父親群、母親群それぞれの因子分析結果と因子間相関行列を表70～73に示す。上記の整形方針の従った結果、父親群のデータ数は1078件、母親群のデータ数は1359件となった。

	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5
因子1 他者の苦痛への共感性					
【6】他人をいじめている人がいると腹が立つ	0.698	-0.049	0.026	-0.041	-0.019
【13】人が冷たくあしらわれているのを見ると非常に腹が立つ	0.681	-0.053	0.096	0.039	-0.024
【7】ニュースで災害にあった人などを見ると同情してしまう	0.651	-0.001	0.065	-0.103	0.023
【8】困っている人を見てもそれほどかわいそうと思わない	0.607	0.048	-0.21	-0.078	-0.04
【10】いじめられている人を見ると胸が痛くなる	0.575	0.013	0.022	0.022	-0.03
【12】人から無視されている人のことが心配になる	0.53	-0.064	0.119	0.166	0.077
【9】身近な人が悲しんでいても何も感じないことがある	0.521	0.055	-0.237	0.005	-0.017
【5】悲しい体験をした人の話を聞くとつらくなってしまう	0.416	0.126	0.225	-0.097	0.151
【11】知人がとても幸せな体験をしたことを知ったら私まで嬉しくなる	0.348	0.075	-0.026	0.132	0.13
因子2 感情移入					
【21】ドラマや映画を観るとき自分も登場人物になったような気持ちで観ることが多い	0.045	0.868	-0.002	-0.094	0.016
【25】テレビや映画を観た後には自分が登場人物の一人のように感じる	-0.1	0.743	0.057	-0.083	0.048
【20】小説を読むとき登場人物の気持ちになりきってしまう	0.098	0.714	0.018	0.012	-0.052
【22】本を読むときは主人公の気持ちを考えながら読む	0.102	0.652	-0.048	0.193	-0.104
【23】面白い物語や小説を読むと、そのようなことが自分に起こったらどのように感じるかを想像する	0.068	0.632	-0.081	0.095	0.021
【24】テレビゲームの主人公になりきるのが好きだ	-0.137	0.622	0.048	-0.01	0.027
因子3 対人援助に関する困惑					
【15】まわりの人が感情的になっているとどうしていいかわからなくなる	0.116	-0.039	0.785	-0.001	0.024
【16】すぐに助けてあげないといけない人を見たらどうしていいかわからなくなる	0.001	0.004	0.762	0.003	-0.049
【14】急に何かが起こるとどうしていいかわからなくなる	0.114	-0.019	0.702	0.023	0.006
【17】泣いている人を見るとどうしていいかわからなくて困る	0.107	-0.025	0.677	-0.029	-0.06
【18】転んで怪我をした人を見るとそこから逃げ出したいくなる	-0.334	0.128	0.459	0.029	-0.05
【19】怪我をして痛そうにしている人を見ると気持ちが悪くなる	-0.214	0.078	0.415	0.003	0.07
因子4 他者の視点に対する想像力					
【28】知人の目からは物事がどう見えるのだろうか想像し、理解しようとする	-0.023	-0.032	-0.041	0.825	-0.032
【27】怒っている人がいたらどうして怒っているのだろうか想像する	0.12	-0.071	0.026	0.699	-0.027
【29】誰かに対し腹が立つたらしばらくその人の立場に立ってみようとする	-0.065	0.039	0.027	0.686	0.019
【26】誰かを批判するより前に自分がその立場だったらどう思うかを想像する	-0.036	0.008	0.026	0.67	0.008
【30】この人は不安なのだなというように人がどう感じているかに敏感な方だ	-0.049	0.066	-0.029	0.546	0.079
因子5 対人援助への意欲					
【2】体の不自由な人やお年寄りに何かしてあげたいと思う	0.023	-0.047	-0.021	0.013	0.814
【1】困っている人がいたら助けたい	0.071	-0.009	-0.093	-0.032	0.735
【3】心配のあまりパニックに襲われている人を見ると何とかしてあげたい	0.053	0.024	0.017	-0.007	0.693
【4】落ち込んでいる人がいたら勇気づけてあげたい	0.067	0.029	0.046	0.072	0.638

	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5
因子1	1	0.305	-0.074	0.438	0.666
因子2	0.305	1	0.171	0.386	0.204
因子3	-0.074	0.171	1	-0.121	-0.165
因子4	0.438	0.386	-0.121	1	0.404
因子5	0.666	0.204	-0.165	0.404	1

	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5
因子1 他者の苦痛への共感性					
【6】他人をいじめている人がいると腹が立つ	0.673	-0.005	0.007	-0.099	0.024
【13】人が冷たくあしらわれているのを見ると非常に腹が立つ	0.652	-0.011	0.068	0.038	-0.033
【10】いじめられている人を見ると胸が痛くなる	0.626	-0.046	0.041	0.005	-0.082
【7】ニュースで災害にあった人などを見ると同情してしまう	0.6	0.047	0.064	-0.067	0.026
【12】人から無視されている人のことが心配になる	0.531	-0.039	0.036	0.089	0.036
【8】困っている人を見てもそれほどかわいそうと思わない	0.524	-0.035	-0.107	0.014	0.069
【9】身近な人が悲しんでいても何も感じないことがある	0.427	-0.04	-0.171	0.024	0.029
【5】悲しい体験をした人の話を聞くとつらくなってしまう	0.423	0.125	0.256	-0.055	0.054
【11】知人がとても幸せな体験をしたことを知ったら私まで嬉しくなる	0.278	-0.025	-0.095	0.16	0.109
因子2 感情移入					
【21】ドラマや映画を観るとき自分も登場人物になったような気持ちで観ることが多い	0.032	0.879	-0.027	-0.103	-0.026
【20】小説を読むとき登場人物の気持ちになりきってしまう	0.087	0.795	-0.024	-0.069	-0.055
【25】テレビや映画を観た後には自分が登場人物の一人のように感じる	-0.134	0.648	0.062	-0.01	0.072
【22】本を読むときは主人公の気持ちを考えながら読む	0.108	0.633	-0.082	0.141	-0.078
【23】面白い物語や小説を読むと、そのようなことが自分に起こったらどのように感じるかを想像する	0.034	0.622	-0.047	0.122	0.018
【24】テレビゲームの主人公になりきるのが好きだ	-0.202	0.491	0.094	0.029	0.096
因子3 対人援助に関する困惑					
【16】すぐに助けてあげないといけない人を見たらどうしていいかわからなくなる	0.011	-0.03	0.802	0.047	-0.03
【17】泣いている人を見るとどうしていいかわからなくて困る	-0.037	-0.022	0.779	0.046	-0.031
【15】まわりの人が感情的になっているとどうしていいかわからなくなる	0.155	-0.018	0.755	-0.009	0.036
【14】急に何かが起こるとどうしていいかわからなくなる	0.166	-0.007	0.678	-0.019	0.001
【18】転んで怪我をした人を見るとそこから逃げ出したいくなる	-0.283	0.047	0.43	-0.006	-0.016
【19】怪我をして痛そうにしている人を見ると気持ちが悪くなる	-0.244	0.072	0.358	-0.014	0.029
因子4 他者の視点に対する想像力					
【28】知人の目からは物事がどう見えるのだろうか想像し、理解しようとする	0.035	0.027	-0.028	0.75	-0.084
【29】誰かに対し腹が立ったらしばらくその人の立場に立ってみようとする	-0.122	-0.02	0.084	0.701	0.046
【27】怒っている人がいたらどうして怒っているのだろうか想像する	0.012	-0.014	-0.022	0.65	0.043
【26】誰かを批判するより前に自分がその立場だったらどう思うかを想像する	0.039	-0.003	0.037	0.615	-0.044
【30】この人は不安なのだなというように人がどう感じているかに敏感な方だ	0.051	0.069	-0.019	0.409	0.073
因子5 対人援助への意欲					
【2】体の不自由な人やお年寄りに何かしてあげたいと思う	0.007	-0.028	0.004	-0.046	0.822
【1】困っている人がいたら助けたい	0.025	-0.004	-0.047	-0.015	0.787
【3】心配のあまりパニックに襲われている人を見ると何とかしてあげたい	0.032	-0.007	0.01	0.039	0.665
【4】落ち込んでいる人がいたら勇気づけてあげたい	0.077	0.089	0.028	0.047	0.581

	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5
因子1	1	0.223	-0.115	0.369	0.598
因子2	0.223	1	0.196	0.293	0.162
因子3	-0.115	0.196	1	-0.155	-0.242
因子4	0.369	0.293	-0.155	1	0.35
因子5	0.598	0.162	-0.242	0.35	1

原本と異なり、両群とも5因子構造が得られた。相関の高さに若干の差が見られるのみで、両群ともこの5因子はほぼ同一と判断できる内容になっている。因子1は「他人をいじめている人がいると腹が立つ」などが含まれ、「他者の苦痛への共感性」と命名した。因子2は「ドラマや映画を観るとき自分も登場人物になったような気持ちで観ることが多い」などが含まれ、「感情移入」と命名した。因子3は

「すぐに助けてあげないといけない人を見たらどうしていいかわからなくなる」などが含まれ、「対人援助に関する困惑」と命名した。因子4は「知人の目からは物事がどう見えるのだろうか」と想像し、理解しようとする」などが含まれ、「他者の視点に対する想像力」と命名した。因子5は「体の不自由な人やお年寄りに何かしてあげたいと思う」などが含まれ、「対人援助への意欲」と命名した。

両群の因子得点を表74に示す。

	父親群					母親群				
	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5
平均	35.65	16.02	13.97	16.75	15.30	38.03	16.87	14.46	17.86	16.00
標準偏差	4.65	4.66	3.85	3.34	2.36	4.03	4.47	3.89	2.86	2.23
分散	21.61	21.76	14.81	11.17	5.59	16.24	19.98	15.16	8.20	4.95
中央値	36	16	14	17	16	38	17	14	18	16
最頻値	35	18	12	17	16	36	18	12	19	16
範囲	30	24	21	20	16	28	24	22	20	16
最小	15	6	6	5	4	17	6	6	5	4
最大	45	30	27	25	20	45	30	28	25	20
標本数	1078	1078	1078	1078	1078	1359	1359	1359	1359	1359

表75は、多次元的共感性尺度の各項目ならびに5つの因子得点についての、父親群と母親群の対応のあるt検定結果である。この尺度に関して両親ともに完全回答をしていた998件を対象とした。ほとんどすべての項目で、両親間に統計的な有意差が見られている。ただし、サンプル数が1000件近くあることから、統計的な有意差

はかなり検出しやすくなっていると考えられるため、この結果だけから両親間の共感性に明確な差があると結論づけるのは乱暴かもしれない。

表75 多次元的共感性尺度の父親群・母親群による対応のあるt検定結果

項目	父親	母親	t値	df	有意差
1. 困っている人がいたら助けたい	4.016	4.187	-7.148	996	**
2. 体の不自由な人やお年寄りに何かしてあげたいと思う	3.954	4.107	-6.267	996	**
3. 心配のあまりパニックに襲われている人を見ると何とかしてあげたくなる	3.642	3.79	-5.104	996	**
4. 落ち込んでいる人がいたら勇気づけてあげたい	3.685	3.975	-10.456	996	**
5. 悲しい体験をした人の話を聞くとつらくなってしまう	3.63	3.938	-8.153	996	**
6. 他人をいじめている人がいると腹が立つ	4.367	4.501	-4.923	996	**
7. ニュースで災害にあった人などを見ると同情してしまう	4.03	4.259	-8.256	996	**
8. 困っている人を見てもそれほどかわいそうと思わない	3.938	4.246	-10.353	996	**
9. 身近な人が悲しんでいても何も感じないことがある	4.174	4.417	-7.681	996	**
10. いじめられている人を見ると胸が痛くなる	4.076	4.394	-9.146	996	**
11. 知人がとても幸せな体験をしたことを知ったら私まで嬉しくなる	3.765	4.165	-13.068	996	**
12. 人から無視されている人のことが心配になる	3.806	4.083	-9.578	996	**
13. 人が冷たくあしらわれているのを見ると非常に腹が立つ	3.863	4.088	-7.227	996	**
14. 急に何かが起こるとどうしていいかわからなくなる	2.626	3.055	-9.682	996	**
15. まわりの人が感情的になっているとどうしていいかわからなくなる	2.554	2.835	-6.87	996	**
16. すぐに助けてあげないといけいない人を見たらどうしていいかわからなくなる	2.372	2.592	-5.707	996	**
17. 泣いている人を見るとどうしていいかわからなくて困る	2.63	2.494	3.499	996	**
18. 転んで怪我をした人を見るとそこから逃げ出したくなる	1.804	1.7	3.58	996	**
19. 怪我をして痛そうにしている人を見ると気持ちが悪くなる	1.97	1.773	5.614	996	**
20. 小説を読むとき登場人物の気持ちになりきってしまう	2.837	3.073	-5.331	996	**
21. ドラマや映画を観るとき自分も登場人物になったような気持ちで観ることが多い	2.787	3.001	-4.666	996	**
22. 本を読むときは主人公の気持ちを考えながら読む	3.139	3.498	-8.468	996	**
23. 面白い物語や小説を読むと、そのようなことが自分に起こったらどのように感じるかを想像する	3.038	3.278	-5.455	996	**
24. テレビゲームの主人公になりきるのが好きだ	2.019	1.827	4.731	996	**
25. テレビや映画を観た後には自分が登場人物の一人のように感じる	2.267	2.274	-0.163	996	
26. 誰かを批判するより前に自分がその立場だったらどう思うかを想像する	3.384	3.554	-4.52	996	**
27. 怒っている人がいたらどうして怒っているのだろうと想像する	3.598	3.83	-6.941	996	**
28. 知人の目からは物事がどう見えるのだろうと想像し、理解しようとする	3.523	3.714	-5.538	996	**
29. 誰かに対し腹が立ったらしばらくその人の立場に立ってみようとする	3.013	3.201	-5.216	996	**
30. この人は不安なのだなというように人がどう感じているかに敏感な方だ	3.255	3.625	-9.325	996	**
因子1「他者の苦痛への共感性」得点	35.649	38.091	-15.101	996	**
因子2「感情移入」得点	16.087	16.952	-4.446	996	**
因子3「対人援助に関する困惑」得点	13.956	14.449	-3.185	996	**
因子4「他者の視点に対する想像力」得点	16.772	17.924	-8.644	996	**
因子5「対人援助への意欲」得点	15.297	16.059	-9.459	996	**

** 1%水準の有意差を示す

III - 2 精神的回復力尺度について

精神的回復力尺度は原本では3因子構造で評価することになっているが、この尺度が開発段階では主として青年層を対象にしていたことから、成人～高齢者層まで

をも含む今回の調査で使用するにあたり、あらためて因子分析を実施した。主因子法を用い、因子間に正の相関が生じることが想定されたため、斜交回転で実施した。父親群、母親群それぞれの因子分析結果と因子間相関行列を表76～79に示す。上記の整形方針の従った結果、父親群のデータ数は1110件、母親群のデータ数は1419件となった。

	因子1	因子2	因子3	因子4
因子1 新奇性の追求				
【4】新しいことや珍しいことが好きだ	0.864	-0.025	0.106	-0.205
【1】いろいろなことにチャレンジするのが好きだ	0.768	-0.007	-0.02	0.064
【7】物事に関する興味や関心が強い方だ	0.713	0.078	0.04	-0.065
【10】私はいろいろなことを知りたいと思う	0.628	0.088	0.016	-0.004
因子2 未来志向性				
【9】自分の将来に希望を持っている	-0.022	0.894	0.019	-0.031
【6】将来の見通しは明るいと思う	-0.029	0.811	0.064	-0.092
【3】自分の未来にはきっといいことがあると思う	0.019	0.804	0.053	-0.106
【12】自分には将来の目標がある	0.09	0.62	-0.139	0.221
【13】困難があっても、それは人生にとって価値のあるものだと思う	0.096	0.366	-0.002	0.265
【15】自分の目標のために努力している	0.125	0.352	-0.131	0.329
因子3 感情統制				
【2】自分の感情をコントロールできる方だ	0.034	-0.043	0.748	0.046
【5】動揺しても自分を落ち着かせることができる	0.13	0.05	0.672	0.025
【8】いつも冷静でいられるよう心がけている	0.159	0.061	0.563	-0.038
【21】怒りを感じるとおさえられなくなる	-0.148	-0.056	0.538	0.271
【14】気分転換がうまくできない方だ	0.057	0.133	0.292	0.175
因子4 安定性				
【20】飽きっぽい方だと思う	-0.239	0.024	0.119	0.536
【18】新しいことをやり始めるのは面倒だ	0.442	-0.105	-0.038	0.526
【16】慣れないことをするのは好きではない	0.353	-0.135	-0.063	0.522
【19】その日の気分によって行動が左右されやすい	-0.161	-0.068	0.327	0.498
【17】つらいできごとがあると耐えられない	0.017	0.021	0.188	0.444
【11】粘り強い人間だと思う	-0.021	0.168	0.169	0.362

	因子1	因子2	因子3	因子4
因子1	1	0.598	0.187	0.45
因子2	0.598	1	0.38	0.463
因子3	0.187	0.38	1	0.425
因子4	0.45	0.463	0.425	1

	因子1	因子2	因子3	因子4
因子1 新奇性への態度				
【4】新しいことや珍しいことが好きだ	0.828	-0.057	0.082	-0.151
【1】いろいろなことにチャレンジするのが好きだ	0.818	-0.094	-0.042	0.051
【7】物事に関する興味や関心が強い方だ	0.727	-0.017	0.039	0.062
【18】新しいことをやり始めるのは面倒だ	0.698	0.14	-0.084	-0.018
【16】慣れないことをするのは好きではない	0.599	0.224	-0.124	-0.037
【10】私はいろいろなことを知りたいと思う	0.521	-0.119	0.142	0.15
因子2 気分の変動と調節				
【2】自分の感情をコントロールできる方だ	-0.023	0.735	0.072	-0.025
【21】怒りを感じるとおさえられなくなる	-0.098	0.717	0.018	-0.041
【5】動揺しても自分を落ち着かせることができる	0.083	0.614	0.152	-0.016
【19】その日の気分によって行動が左右されやすい	0.027	0.596	-0.179	0.191
【8】いつも冷静でいられるよう心がけている	-0.052	0.478	0.162	0.036
【17】つらいできごとがあると耐えられない	0.159	0.451	0.057	0.053
【14】気分転換がうまくできない方だ	0.098	0.443	0.157	-0.015
因子3 未来への見通し				
【9】自分の将来に希望を持っている	-0.052	0.033	0.872	0.052
【6】将来の見通しは明るいと思う	-0.028	0.088	0.868	-0.094
【3】自分の未来にはきつといいことがあると思う	0.045	0.045	0.838	-0.074
【13】困難があっても、それは人生にとって価値のあるものだと思う	0.025	0.106	0.349	0.237
因子4 目標志向性				
【15】自分の目標のために努力している	0.083	-0.095	0.152	0.619
【11】粘り強い人間だと思う	-0.042	0.203	-0.029	0.58
【12】自分には将来の目標がある	0.012	-0.126	0.457	0.497
【20】飽きっぽい方だと思う	-0.065	0.361	-0.238	0.434

	因子1	因子2	因子3	因子4
因子1	1	0.301	0.583	0.497
因子2	0.301	1	0.318	0.361
因子3	0.583	0.318	1	0.516
因子4	0.497	0.361	0.516	1

原本と異なり、両群とも4因子構造が得られた。ただし、同じく4因子構造でも、父親群と母親群では因子の内容が微妙に異なっている。

父親群では因子1に「新しいことや珍しいことが好きだ」「いろいろなことにチャレンジするのが好きだ」といった4項目がまとまり、「新奇性追求」と命名した。因子2には「自分の将来に希望を持っている」「自分の目標のために努力している」などが含まれ、「未来志向性」と命名した。因子3は「自分の感情コントロ

ールできる方だ」に代表される内容で、「感情統制」と命名した。因子4は「飽きっぽい方だと思う」「粘り強い人間だと思う」など、一見すると矛盾するような内容がまとまったが、ここにまとまった6項目はいずれも高い正の相関が示されていて、気分の変動に抗しながら事態に取り組もうとする姿勢を示すものと考え、「安定性」と命名した。

一方、母親群では、因子1には父親群と同様に新奇性追求につながる項目が集まったが、同時に父親群では別因子に分離された「新しいことを始めるのは面倒だ」「慣れないことをするのは好きではない」の項目が含まれた。そのため、因子名は「新奇性追求」ではなく「新奇性への態度」とした。因子2には、父親群の因子3にまとまった項目がすべて入ってきたが、同時に「つらいできごとがあると耐えられない」「その日の気分によって行動が左右されやすい」も含まれており、「気分の変動と調節」と命名した。因子3は、すべての項目が父親群の因子2に含まれるのであったが、「目標」という観点の項目がきれいに外れており、父親群の「未来志向性」という強い表現ではなく、「未来への見通し」と命名した。因子4はいずれも「目標」を志向した項目であると判断し、「目標志向性」と命名した。

おおまかに傾向を述べれば、第一に、父親群では「未来志向性」としてまとまりを見せた心情が、母親群では「これから先を見通すこと」と「何か明瞭な目標を持つこと」が分離されるという構造が見られたということ。第二に、母親群では新奇

性への取り組みでも気分や感情の要因が不可分に入り込んでいるという構造が見られたことである。

「精神的回復力尺度」の因子得点を父親群と母親群に分けて表 80、81 に示す。

表80 精神的回復力尺度の因子得点(父親群)					表81 精神的回復力尺度の因子得点(母親群)				
	因子1	因子2	因子3	因子4		因子1	因子2	因子3	因子4
平均	14.62	21.13	21.13	21.13	平均	21.06	23.34	14.41	13.37
標準偏差	2.75	4.29	4.29	4.29	標準偏差	4.45	4.81	3.16	2.96
分散	7.57	18.44	18.44	18.44	分散	19.85	23.15	9.96	8.79
中央値	15	21	21	21	中央値	21	23	14	13
最頻値	15	24	24	24	最頻値	22	22	13	12
範囲	16	24	24	24	範囲	24	28	16	16
最小	4	6	6	6	最小	6	7	4	4
最大	20	30	30	30	最大	30	35	20	20
標本数	1110	1110	1110	1110	標本数	1419	1419	1419	1419

表 82 は、精神的回復力尺度の各項目についての、父親群と母親群の対応のある t 検定結果である。この尺度に関して両親ともに完全回答をしていた 1083 件を対象とした。いくつかの項目で、両親間に統計的な有意差が見られている。

	父親	母親	t値	df	有意確率	有意差
1. いろいろなことにチャレンジするのが好きだ	3.512	3.584	-1.652	1082	0.099	
2. 自分の感情をコントロールできる方だ	3.49	3.291	4.848	1082	0	**
3. 自分の未来にはきっといいことがあると思う	3.593	3.673	-2.267	1082	0.024	*
4. 新しいことや珍しいことが好きだ	3.708	3.7	0.203	1082	0.839	
5. 動揺しても自分を落ち着かせることができる	3.51	3.389	3.019	1082	0.003	**
6. 将来の見通しは明るいと思う	3.368	3.392	-0.663	1082	0.507	
7. 物事に関する興味や関心が強い方だ	3.661	3.701	-0.995	1082	0.32	
8. いつも冷静でいられるよう心がけている	3.774	3.638	3.748	1082	0	
9. 自分の将来に希望を持っている	3.513	3.538	-0.723	1082	0.47	
10. 私はいろいろなことを知りたいと思う	3.944	4.118	-5.085	1082	0	**
11. 粘り強い人間だと思う	3.533	3.481	1.2	1082	0.231	
12. 自分には将来の目標がある	3.443	3.425	0.452	1082	0.651	
13. 困難があっても、それは人生にとって価値のあるものだと思う	3.765	3.929	-4.636	1082	0	**
14. 気分転換がうまくできない方だ	3.343	3.361	-0.382	1082	0.703	
15. 自分の目標のために努力している	3.5	3.387	2.97	1082	0.003	**
16. 慣れないことをするのは好きではない	2.794	2.798	-0.083	1082	0.934	
17. つらいできごとがあると耐えられない	3.404	3.201	5.199	1082	0	**
18. 新しいことをやり始めるのは面倒だ	3.109	3.204	-2.157	1082	0.031	*
19. その日の気分によって行動が左右されやすい	3.25	3.038	4.792	1082	0	**
20. 飽きっぽい方だと思う	3.156	3.091	1.451	1082	0.147	
21. 怒りを感じるとおさえられなくなる	3.358	3.244	2.491	1082	0.013	*

* 5%水準の有意差 ** 1%水準の有意差

III - 3 主観的幸福度尺度について

主観的幸福度尺度は、15項目からなる単一尺度である。測定された幸福度は合計得点で示される。ややわかりにくい説明になるが、主観的幸福度得点は低いほど主観的幸福度が高いことを示す。この尺度において最も高い主観的幸福度を表明した場合の得点は15点となり、最も低い主観的幸福度を表明した場合の得点は60点となる（なお、第二報においてはデータを整形して、「得点が大きくなるほど主観的幸福度が増す」という形にする予定である）。

表83に父親群・母親群それぞれの主観的幸福度得点と関連指標を示す。

	父親群	母親群
平均	33.26	33.55
標準偏差	6.02	6.08
分散	36.20	37.00
中央値	33	33
最頻値	32	32
範囲	43	42
最小	16	16
最大	59	58
標本数	1144	1481

分布の状況を視覚的に示すため、図4、5にそれぞれの群のヒストグラムと累積度数曲線を示す。

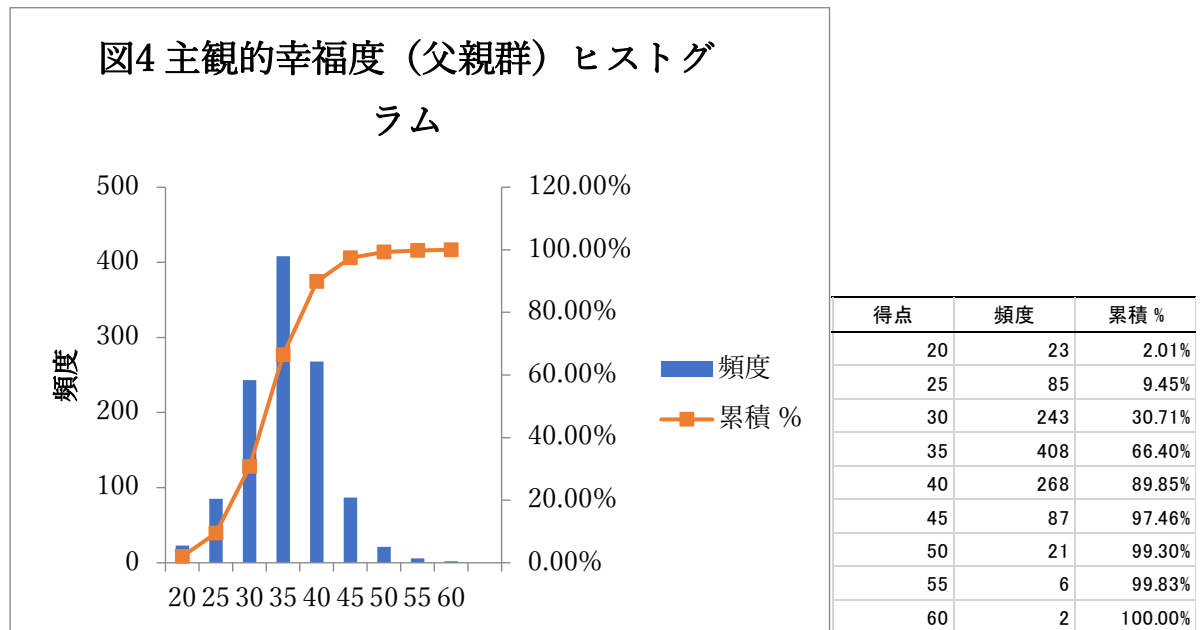
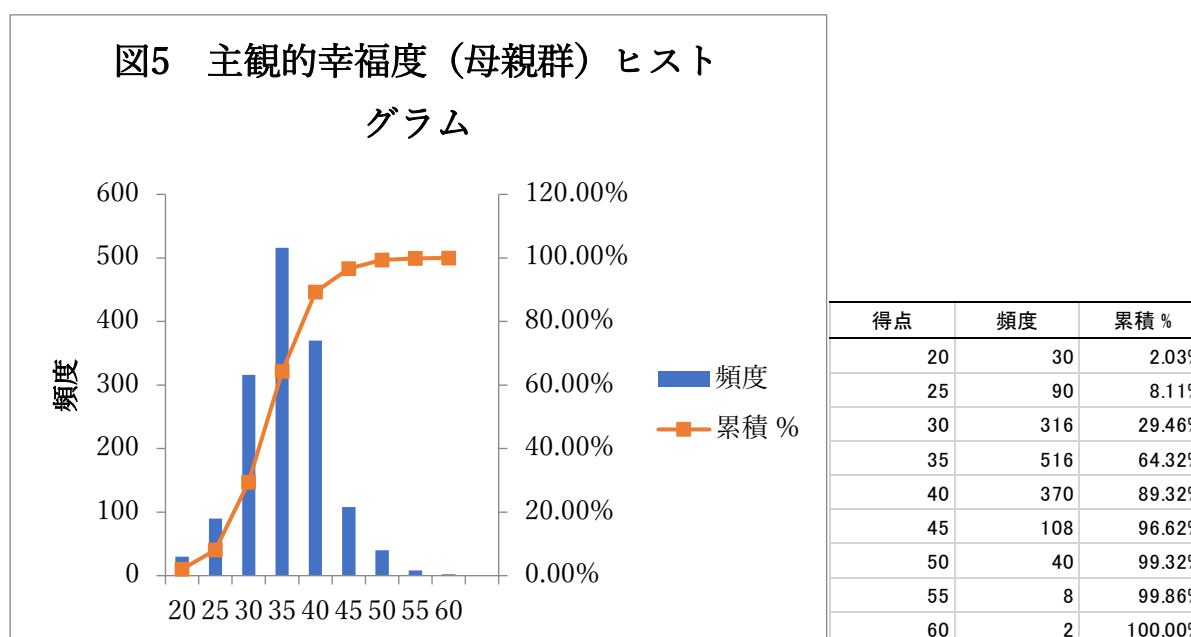


図5 主観的幸福度（母親群）ヒストグラム



III - 4 両親にとって励まし／ストレスナーになった対人的要因

この部分では、「DSのある子どもさんの言動」「DSのある子どもさんのきょうだいの言動」「パートナーの言動」「自分の両親の言動」「パートナーの両親の言動」「医療関係者の言動」「保健関係者の言動」「教育関係者の言動」「福祉関係者の言動」「DSのある子どもの、他の保護者の言動」「DSのある子どもの友だちや先輩の言動」「職場の同僚の言動」「職場の上司の言動」「近隣の住人の言動」「商店・食堂などのスタッフの言動」「役所など行政関係者の言動」「メディア（テレビ・新聞・雑誌等）で流された言動」「見ず知らずの人の言動」に分けて、それが励ましになった、あるいはストレスナーになった度合いについて4件法で尋

ねた。この質問項目は標準化された尺度ではないため、4件の中間に丸をつけた回答（集計時には「2.5」のように記入した）についても無効回答とは見なさずに扱っている。回答は「とてもなった」が1、「ほとんどならなかった」が4で記入されているため、励まし/ストレッサーとして大きかったと評価されるほど数値が小さくなることになる。表84に各項目に対する父親群・母親群それぞれの平均値を示す。

	父親群				母親群			
	励まし		ストレッサー		励まし		ストレッサー	
	平均値	回答数	平均値	回答数	平均値	回答数	平均値	回答数
1. DSのある子どもさんの言動	1.75	1172	2.77	1148	1.50	1522	2.44	1490
2. DSのある子どもさんのきょうだいの言動	1.93	976	3.15	957	1.61	1235	2.98	1208
3. パートナーの言動	1.62	1172	2.98	1148	1.80	1504	2.58	1473
4. 自分の両親の言動	2.14	1134	3.08	1119	1.81	1495	2.90	1468
5. パートナーの両親の言動	2.03	1154	3.28	1127	2.21	1459	2.70	1442
6. 医療関係者の言動	2.12	1153	3.10	1126	1.86	1520	2.85	1493
7. 保健関係者の言動	2.45	1102	3.17	1077	2.30	1490	2.91	1460
8. 教育関係者の言動	2.18	1139	2.99	1113	1.83	1501	2.57	1480
9. 福祉関係者の言動	2.22	1137	3.14	1115	1.87	1508	2.92	1474
10. DSのある子どもの、他の保護者の言動	2.09	1145	3.23	1128	1.59	1520	2.96	1480
11. DSのある子どもの友だちや先輩の言動	2.26	1109	3.24	1091	1.89	1481	3.08	1443
12. 職場の同僚の言動	2.82	1121	3.26	1102	2.42	1197	3.14	1175
13. 職場の上司の言動	2.87	1111	3.26	1088	2.57	1150	3.16	1132
14. 近隣の住人の言動	2.70	1133	3.25	1107	2.36	1486	3.05	1454
15. 商店・食堂などのスタッフの言動	2.88	1115	3.25	1096	2.67	1454	3.13	1440
16. 役所など行政関係者の言動	2.95	1117	3.07	1103	2.87	1493	2.76	1481
17. メディア（テレビ・新聞・雑誌等）で流された言動	2.70	1142	2.91	1121	2.46	1495	2.63	1487
18. 見ず知らずの人の言動	3.09	1124	3.01	1108	2.88	1491	2.61	1487

父親群・母親群のそれぞれについて、1～18の要因が「励まし」になるのか「ストレッサー」になるのかについてt検定を実施したところ、等分散仮定が満たされている場合もそうでない場合も、すべての比較において1%水準（母親群の要因16

についてのみ 5%水準) での有意差が検出された。ただし、これもサンプル数の大きさを考えれば当然のことかもしれない。とはいえ、この結果を踏まえて傾向について記述すれば以下のようなになる。

・父親群では「見ず知らずの人の言動」のみが励ましよりもストレスになる傾向があり、他の要因はすべてストレスよりも励ましになっている。

・母親群では「見ず知らずの人の言動」と「役所など行政関係者の言動」の2つが励ましよりもストレスになる傾向があり、他の要因はすべてストレスよりも励ましになっている。

第4章 まとめ

この第一報では、単純集計中心の速報的報告のみとなる。複数尺度による高低群に分けてさまざまな生活状況との関連性を検討したり、DS 本人や両親の年齢などの要因による差などの解析は第二報で報告する予定である。